

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月2日 (金)

会場 日立製作所日立体育館

【女子の部】 第1日目 Bコート 第1試合

チームA 奈良文化女子短大付属 奈良	71	{ 21 1Q 18 24 2Q 8 14 3Q 8 12 4Q 21 OT }	55	チームB 東海大学第三 長野
---------------------------------	----	--	----	-----------------------------

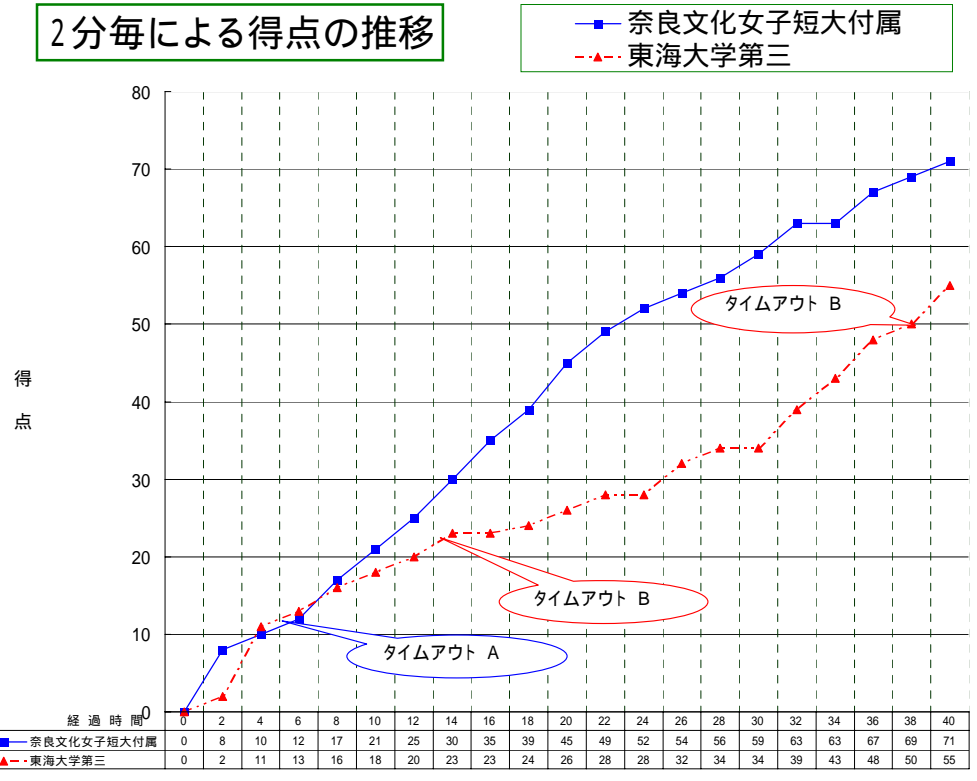
奈良文化女子短大付属

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	永保 円	8	0	1	4	6	0	0	2	1	1	1	1	2	0	25
5	岩本 寿子	10	0	0	5	6	0	0	0	0	1	4	0	0	1	13
6	谷 薫	2	0	0	1	3	0	0	2	0	3	1	1	0	2	10
7	今井美知子	11	3	6	1	6	0	0	1	0	3	2	2	4	0	33
8	中野 科	13	3	4	1	6	2	4	2	0	1	5	3	3	1	33
9	朝山 菜月	10	0	0	4	10	2	4	1	2	4	3	2	0	4	37
10	田口 紗織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11	橋本真梨子	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1
12	新本 庸子	8	0	0	3	9	2	2	4	7	9	3	0	2	12	30
13	磯 千賀子	9	1	3	3	6	0	0	0	2	1	2	2	3	0	15
14	向出 祥子	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	中村 綾	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
コーチ	永保 司								0							
		71	7	15	22	52	6	10	15	13	23	22	11	14	20	200
		確率	46.7%		42.3%		60.0%			計	36					

東海大学第三

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	志賀 明子	11	0	1	5	13	1	3	2	0	2	3	1	1	0	39
5	田中 愛	10	2	3	1	6	2	3	1	0	1	5	2	1	0	36
6	飯塚 麻衣	5	1	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
7	野溝 千佳	12	0	0	5	15	2	4	4	3	4	7	3	0	1	37
8	平出 奈々	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
9	守屋麻衣子	5	1	2	1	6	0	0	3	0	2	1	1	1	0	27
10	山田りり子	12	0	0	3	18	6	6	2	4	0	3	2	1	1	40
11	原 晃子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
12	小森 香奈															DNP
13	澹田はるみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
14	庄毛 安那															DNP
15	林 沙織															DNP
コーチ	高山 勝裕								0							
		55	4	10	16	61	11	16	12	7	9	19	9	4	2	200
		確率	40.0%		26.2%		68.8%			計	16					

2分毎による得点の推移



戦評

奈良がハーフコートマンツーマン、東海が2-1-2オールコートゾーンプレスとハーフに戻ってからの3-2ゾーンでスタート。東海は#7野溝のインサイドと#5田中の1対1を絡めて攻める。奈良は#8中野の3Pや、プレスをパッシングで破ってのイージーシュートで加点していく。試合が動いたのは第2P。奈良がバックコートからプレッシャーをかけて東海の攻めのリズムを崩し、インサイドも東海#7野溝に仕事をさせない。さらに奈良は、第2Pだけで4本の3Pを#7今井が決めて、東海を一気に突き放し、45-26奈良19点のリードで第2Pを終わる。

第3Pに入っても奈良はパッシングで東海のディフェンスを攻略し続ける。東海も#7野溝のゴール下シュートや#10山田のポストプレイで食い下がるが点差は縮まらない。59-34奈良25点リードで第4Pに入る。

第4Pに入り東海はマンツーマンディフェンスに切り替え#10山田のハイポストからのドライブや#4志賀のゴール下やドライブで粘りを見せるが、奈良も点差を考えた冷静なオフェンスと選手交替で落ち着いて対応した。

結局、東海のインサイドのオフェンスをおさえ、相手のオールコートプレスと3-2ゾーンにパッシングで対応した奈良が東海を71-55で下して2回戦に名乗りをあげた。

主審 濱田省三

副審 稲野辺義浩

記入者 和田創一